第三次合理化 そうつとはせ！

斗いの経験いかせ

第三次合理化に怒る組合員、主婦

三井鉱山の恥知らずな第三次合理化案は、いま職場や地域にはげしい怒りと憤りを湧き立てており、この怒りは何が何でもたたかい抜くとの強い斗志をかき立てている。編集部では、第三次合理化に対する、地域・職場の組合員・主婦会員の率直な意見と決意を集録してみた。

停年までたたかう

三川・採炭　古江　語

あの合理化案をみるかぎり、会社は一方的にやってくるでしょうが、私たちはハッキリした決意と態度で立向かってゆかなければいけないと思います。

そして、ここで三池斗争の当時を十分思いうかべてたたかうべきでしょう。そうでないと、あの斗争が無意味になります。

資本攻勢の激しい中で、安保とともに歴史的なたたかいをしてきた三池労組が、苦しい中にありながら抵抗を除々につよめており、総評、炭労の支援でここまでたたかってきました。それが、いまここで屈服したなら、これまでのたたかいが何にもなりません。

私は停年まであと何年もありませんが、孫子の代まで恥かしくないような労働者の道を、停年まで歩きつづけ、たたかいつづけてゆきます。

意地でも辞められん

四山・運搬　山根　重人

第三次合理化案のどれ一つとってみても、納得できないというのが全組合員の気持ちでしょう。

この会社の攻撃にたいして「今までたたかってきて、こんどもたたかわなければならない」ということは、分りすぎるほど分っていますが、とくに高令者の人たちなどは退職金の問題などに関連して悩みも深いと思います。これを各人がどう理解し判断してたたかってゆくかが非常に大切なことだと思いますね。

炭鉱に魅力をなくするムードをつくって、辞めさせようというのが会社の狙いでしょう。だが、組合員は「意地でも辞められんぞ」というのが卒直な気持ちです。

強まる決意

三川・採炭　橋本　新二

私はあと三年ばかりで停年ですが、差別待遇は一年以上つづけられており、最後まで会社から攻撃されるわけですが、労働者として最後までたたかってゆく決心を固めているので何ともありません。

いつかは、必ずこの攻撃をはね返すという気持ちでたたかってきましたし、こんどますますこの決意は強めてゆかねばならぬと思います。

会社の合理化案は全くお話しになりません。私たちは会社の態度を甘くみるわけにはゆきません。何にもまして抵抗が大切だと思います。

これ位いで負けられない

三川・採炭　三沢　孝士

正直いって、会社から合理化案が出たばかりの時は、停年退職前の人や病弱者はほんとうに動揺したと思います。だが、支部の教宣があり支部長から詳しく話をききます。

会社の攻撃の本質をきいたとたんに、みんなの意志が強く固まりました。

私は就労いらい一回も採炭をさせられていないほどの差別をうけていますが、これくらいでは負けられません。こういう時こそ、みんながほんとうに一体となって、いままでつづけてきたたたかいの経験をつみ上げ、さらに抵抗を強めてたたかういがいないと決心しています。

子供たちのためにもたたかわねば

宮浦・主婦　嘉悦　すみ子

ひどいもんですね、あの合理化案は。あんまりないい分だから、文通している人たちにも知らせてやりました。少しでも私たちの手で、たたかいを拡げなければと思っています。

おかげで、子供たちもスクスクと素直に育っています。子供たちのためにもがんばらなければと心に誓っています。

組合の情宣を聞くのが一番力強く元気づけられます。一人ひとりで悩むより、みんなで心を固め合ってゆくことだと思います。今私たちが崩れてしまったら、こんど労働者はどうなるかということをよくかみしめ、どんなに苦しい状況におかれてもがんばり抜かねばならないと主人とも話し合っています。

たたかう以外にない

四山　一主婦

あれじゃどうもこうもなかなか、全然不服です。もしも、あの通りになるなら労働者はドレイですよ。

会社としては、炭鉱にイヤ気を起させて自然と辞めさせるというのが狙いではないかと思います。

みんながんばってたたかう外はないと話し合っています。

会社の本質を見抜こう

三川・採炭　森田　喜市

一口にいって旦茶苦茶ですね。常識ある経営者なら、とてもこんなことはできないでしょう。明らかに組織破かいがその狙いですね。

これを政治的にみた場合、池田内閣が合理化政策を一方的に強行する手段である。炭鉱に魅力を感じないようにさせるムードをつくって、会社にできるだけ手のかからないように持ってゆくのがその狙いと思います。

組合員の間には、停年も近いしこの際辞めたら退職金が多いからといった感じを持っている人もあるでしょうが、ここでよく敵の本質を見抜かなければなりません。

労働組合という名を持つ組織なら、抵抗するいがいはないですね私たちがここでたたかわなければ今までたたかい続けてきたことが無意味になります。これからが最後の仕上げと思います。

一にも二にも抵抗を

宮浦・堀進　嘉悦　清一

あれじゃ何もかにもないですよ会社の一方的な考えの押しつけであり、労働者のことなど全然考えていませんね。アクラツの一言につきますし、人間の道を外れており、経営者というものは血も涙もないということをはっきりあらわしています。

職場ではみんな怒っており「脅迫だ！」といっているが、おどしだとしても、これに負けると本物になるから、絶対気を許めてはならないと思います。

それぞれの年代層によって悩みもあると思いますが、それが会社の狙いでもあり、それにつけこんで会社は攻撃をかけてくると思います。そのためにも、一人ひとりがしっかりしていなければならぬと痛感します。

合理化案が出されたときは、組合から情宣を聞く前と後とでは気持ちの上から相当距りがありました。実際いって、情宣を聞いた後ではホッとしましたし、勇気が湧きました。私たちの将来の展望は明るいので、ここで自分たちがしっかりした土台を築いてゆかなければならぬと固く心に誓いました。そして、できるだけ抵抗を強め、その力をおしすすめてゆくことです。

拠点から強力な斗いへ

九州では田川が拠点に

炭労は今次の合理化斗争を組むにあたって、中斗発第九十号（二月二十三日）によって、強大な地域斗争の推進を指令し、九州では田川拠点（田川、山野、三池）、北海道では美唄拠点（三井美唄、三菱美唄）とそれぞれ拠点地域を設定し、現地に指導委員会をおいて、この拠点を基礎にたたかいを大きく発展させることになった。

田川、山野、美唄三山への「閉山攻撃」はきわめて悪質な合理化政策として、われわれは反対斗争をきめたが、こういう状態の中で三月三日に、九州では田川と山野でそれぞれ閉山反対の大決起集会をひらいた。この集会に三池からは組合員六名、主婦会員二名が参加した。

【田川】拠点に設定された田川では午前十時から中央中学グラウンドにて地区労主催で約八千名が結集しあくまで閉山を阻止し、日韓会談反対をはじめ当面する諸問題との結合をはかりながら、閉山反対のためたたかいぬくことを誓いあった。

【山野】山野でも同じ日、飯塚市の浅台坊広場に地区労傘下の組合員約千名が参加して、たたかいの意志をもえあがらせ、二年前に二十数億円を投入してつくられた立坑開発にもかかわらず、閉山しようとする会社の無策、無責任さに激しい怒りの声が集まり、あくまで閉山阻止をめざして、全力をあげてたたかう意志統一をした。

× × ×

第三次合理化案をふっとばせ！

宮川組合長の証言

三池労組の歴史から三井鉱山の前近代的労務政策を明らかにし、眠れる豚の三池労組が、二六・七年ごろから斗う組合へ生長し、二八年の一一三日の斗いを通して大衆斗争としての職場斗争を体験し、第一に一人ひとりの労働者が意識を高めて斗えば、必ず要求がかちとれる（幹部斗争から大衆斗争へ）第二に大衆行動、職場斗争の中から団結が強まることを学んだのであります。

職場到達斗争を契機として、会社側は、長計協定の後退からのまきかえしとして職場斗争の圧殺の傾向がでてきました。

灰原書記長の証言

昭和二四年の人員整理、二五年のレッドパージ、二五年二一月の約一万人の人員整理、二八年の企業整備の実態を明らかにし、組合側が、つねに生産の増強には協力し三池における機械化合理化協定を締結したにもかかわらず、わずかその後一〇〇日目に、会社側は協定を全く無視しだまし打ち的に人員整理を提案し、あまつさえ、職場斗争圧殺の政策をとったのであります。

四・六協定についても経営努力を怠り、職場活動家を指名解雇するという全く不当な第二次合理化を強行したのであります。

その合理化の結果は、災害の激増賃金の引下げをはじめとする不当な差別待遇、組夫の導入であります。

以上から三池争議の原因となった指名解雇は、資本の一犯罪史を構成する悪らつ不当なものであります。

河野元三鉱連事務局長の証言

三〇〇人の職場活動家の首切りを強行しようとした会社の意図を、団体交渉の経過から明らかにしました。

× × ×

人員整理の総論立証は、三七年一二月で終了し、三八年一月から各人の解雇理由、いわゆる各論の立証が始まります。

この事件の弁護士は、A班（佐伯藤本、松本）B班（宮原、木梨、松本）の二班にわかれ、B班が本所支部関係を担当することになります。

本所支部関係は、まず会社側から解雇理由を個別的に立証し、ついで組合側から反証を提出する予定であります。

A班は、三八年一月から下田事件を再開し、下田事件の立証が終了してから、三川支部関係の立証に入ることになります。

各人の立証に移る

三池斗争民事公判の経過（終）

ドレイはいやだ

宮浦・主婦　梅崎　二重

会社の考えどおりになるなら、主人たちは全くのドレイ扱いにされていますよ。

とにかく何が何でもたたかわなければ、労働者も炭鉱もいよいよ駄目になると思います。どんなことがあっても、今の労働条件は絶対引下げられませんし、引上げるためにたたかわなければならないと思います。

実際、給料は少いしとても苦しいのが実状です。私の主人は坑外ですので、給料も一万三千円、ほとんど休むこともなく満勤していますがそういう状態です。

結局、生活が楽になるためにはたたかうより外にありません。ここでくじけたら将来は目茶目茶です。やはり、みんなが心を合せたたかい進まねば駄目だと、よく主人と話し合っています。

将来の展望を！

四山・行動隊　蒲池　哲男

あの合理化案をみると、全く会社の本性がムキ出しになっていますね。資本家のやり方というものは、何が何でも労働者に押しつけるということ、これが今度の場合もはっきり現われています。

もしも、あの合理化がそのまま押しつけられたら、労働者は大変こなことになりますよ。

結局、長期抵抗路線の上に立って将来の展望をはっきり持っていれば、たたかいの自信と確信が強まるが、そうでないと不安を持つでしょう。そういう人たちは、現実の目先だけしか見ないから不安も増すわけです。

私がいいたいのはみんなが確固として将来の展望を持つことです

私の職場では、今まで第二組合員は、私たちの前では不平不満はあまりいいませんでしたが、それが今では私たちの前でいうように変ってきました。とくに若い層から出ていますね。よっぽど追いつめられてきたのでしょう。とにかく、いろんな矛盾が出てきているようです。

私たち行動隊としては「第三次合理化をぶっ飛ばせ！」ということで、行動隊が中心になってパーティを計画しています。